

「わたしたちの土台」

マタイによる福音書 7:24-29
エフェソの信徒への手紙 3:16-17

2025年8月31日
野村 友美 師

<土台の役目>

今日は8月31日、早いもので明日からは9月になります。子どもたちの学校も、明日から新学期になるところが多いのでしょうか。夏休みは、長いようで結構あっという間ですね。それでもこの暑さはまだまだ続きそうですから、みなさんも水分をしっかりと摂って、もうひと頑張りで乗り越えましょう。

そんな暑さの中ですが、呉駅前への工事は休みなく順調に進んでいますね。そごう百貨店の建物が撤去されて、地面が深く掘られて、鉄鋼の杭が打ち込まれて、長い時間と労力をかけて、新しい建物の基礎が据えられました。これからその上に、建物がだんだんと出来上がっていくでしょう。

あの土台の工事を見ているだけで、これから建つ建物がどんなに大きくて頑丈なのかが目に浮かぶようです。完成してしまえば、土台がどうなっているのかは外からは見えません。でもその目に見えない土台が、上に建っている建物の重みを支えて、傾かないようにまっすぐに保つ大事な役目を担い続けるんです。

建物が沈み込んで崩れたり、傾いて倒れてしまわないように、見えないところで支える。それが土台の役目です。

さて、この教会の入り口の、鉢植えが置いてあるあたりの壁の下の方に、こう書いた石が嵌^はまって

いるのをご存知でしょうか。「定礎 この土台はイエス・キリストである。」この教会の土台はイエス・キリストです。そう書いてあることの意味を、今日の聖書の言葉が私たちに伝えていきます。

<家と土台>

イスラエルの北の端、他の国々との国境に近いガリラヤ湖のほとりの丘の上で、イエス様はご自分の弟子たちに、そして集まってきた群衆にいろいろな教えを語られました。

その締めくくりとして、イエス様はこの家と土台のたとえ話をなさっています。

イエス様の言葉を聞いて、それを実践して生きる人は、頑丈な岩を土台にして家建てる賢い人に似ている。大雨で川があふれて洪水になって押し寄せても、強い風が吹いてきても、その家はしっかりと建っていて揺り動かされない。

反対に、イエス様の言葉を聞いても、それを実践しようとしらない人は、やわらかな砂を土台にして家建てる愚かな人に似ている。大雨で川の水があふれて押し寄せたら、あるいは強い風が吹きつけたら、その家はあっという間に倒れて、ひどい壊れ方をしてしまう。

今の日本に生きる私たちにとっては、台風や豪雨災害を思い出すようなたとえ話ですね。確かに、洪水や暴風は防ぎようがなく怖いですが、住んでいる地域によってはあんまり身近ではないかもしれません。

どちらかというと、大雨が引き起こす地崩れとか、突然起きる地震なんかの方が怖いと思う方も多いんじゃないでしょうか。ただイ

イエス様たちが暮らしていた地域、乾季と雨季が繰り返すパレスチナ地方では、川の氾濫はとても身近な出来事だったようです。

砂の上という、砂漠とか砂浜を思い浮かべたくなりますが、ここでイエス様がイメージしているのは川のそばで、やわらかな砂や細かい砂利が溜まっていた場所でしょう。

乾季、雨が降らない時期には普通の地面ですが、雨季になると水が流れ込んで、川の底になってしまうような場所です。

イエス様たちがおられたガリラヤ地方は、イスラエルの中でも雨の量が多い地域ですから、そういう場所があちこちにあったんでしょう。そしてガリラヤ湖の周りは、山や丘のような標高が高い土地になっていました。

夕方になると、山肌にぶつかった風がガリラヤ湖に向かって吹き下ろします。そういう突風も、人々にとってはなじみ深いものでした。今でも年に数回は、この吹き下ろす風と雨で、嵐になる日があるんだそうです。

雨が降って川があふれて、水が押し寄せるように。山を伝って吹き下ろす、強い風が打ちつけるように。

日常の中で不意に襲いかかる出来事が、あなたたちの土台をあらわにする。そうイエス様は言っておられるんです。

「家」というものは、私たちの生活の基本になる場所だと言っていいでしょう。どんな家が住みやすいと感じるかは、それぞれだと思います。

きれいに片付いていれば素敵ですし、散らかっていても「どこに何があるかは 分かっているから」という心地よさもあるものです。

住んでいる人にとっては毎日見るもので、周り

の人たちにとっては、そこに住む人の暮らしぶりや性格がうかがえる。そういうものですから、家の大きさとか造りとか、内装にこだわる方は多いでしょう。

一方で、家の土台は普段、住んでいる本人にも他の人たちからも見えません。何事もなければ、特に意識することもないはずです。でも家は土台によって支えられていて、土台を据える場所が弱ければ、家がどんなに立派でも、あっけなく傾いて倒れてしまうんです。堅い岩の上に土台を据えるのは、どう考えても楽じゃありません。重たい岩を運んで使いやすい形に削って並べる、その途中でもう疲れて面倒くさくて嫌になって、「どうせ誰にも見えないんだから」と手を抜きたくなるでしょう。

やわらかくて簡単に掘れる砂の上に土台を据えても、家のデザインにさえこだわれば、それなりに見栄えのいい家は建てられます。楽できるところは楽をして早く家を建てる方が、効率的だと思えるかもしれません。

でも、ひとたび大雨が降って、川があふれて水が押し寄せてきてきたら。強い風が吹きつけて、その家を揺さぶったら。

やわらかい土台に建てた家は、どんなに立派で頑丈に見えても、踏ん張りきれずにがたがたと崩れて、倒れてしまいます。あなたたちもこれと同じだ、とイエス様は私たちの生き方を「家」に例えて警告しておられるんです。

圧倒的な力で何もかも押し流すような苦難が、あなたに襲いかかってきた時に。強い風が吹きつけて揺さぶられるような、理不尽な出来事にみまわれた時に。

踏ん張れずに流されて倒れてしまわないように、あなたの生活の基本、生き方の土台を、しっかりと揺るぎない場所に据えなさい。そうイエス様は教えておられるんです。

<わたしたちの土台>

岩のように堅くて揺るぎない場所。それは、イエス様が語られた一つ一つの言葉です。ここまでイエス様は、いろんなことを細やかに語ってこられました。

聖書が伝える神様からの掟を、大切にしなさい。

周りの人に腹を立てないで、喧嘩したらなるべく早く仲直りしなさい。自分の欲望や都合のために、他の誰かを利用したり、理不尽に扱ってはいけない。怒りや恨みに囚われないで、あなたの敵さえも愛しなさい。善いことをする時には、他の人たちに褒めてもらうためじゃなくて、ただ神様を喜ばせるためにしなさい。自分自身や、他の誰かや何かじゃなくて、神様の愛を信じて頼りなさい。

ここまでのイエス様の言葉に一貫しているのは、神様を愛して人を愛する「幸い」を求めて生きなさい、ということです。

神様から愛されていることを信じて、受け入れて、神様の愛に応えて生きるように。

この世界を創られて、すべてのものに命をお与えになった神様が愛しておられる一人ひとりを、自分も他の人たちもみんなを、大切に生きてるように。このことを、イエス様はあらゆる角度から伝えておられるんです。

本当に、神様と人を心から愛して生きられたら、それはどんなに幸せな人生でしょうか。

信じたい、愛したい、善いものでありたい、正しく生きたいという思いを、誰もが心の奥底の深い

ところに抱えているものです。

何も信じないで、自分の知恵と力を頼みにして、人を蹴落としてでも自分の心地よさを守って生きようとするのは、楽なようで苦しくて不安な日々だと思います。だから私たち人間は、見えない何かに恐れを感じたり、愛と勇気の物語に感動したりするんじゃないでしょうか。

神様からの愛を信じて、神様を愛して人を愛する「幸い」を追い求めて生きる。このことを聞いて納得するだけじゃなくて、実際にあなたの生き方にしなさい。神様を愛して、人を愛して生きる「幸い」を、あなたの思いと言葉と行動で追いかけていきなさい。そうすればあなたは決して倒されない、とイエス様は約束しておられます。

それは、何が起きてもダメージを受けない、土台が堅ければ家にはヒビ一つ入らない、ということではないでしょう。

押し寄せる洪水や吹きつける強風で、家の中の荷物や家具が水に浸かってしまうことも、窓が割れてしまうこともあるように。突然襲いかかってきた苦難や悲しみに、傷ついて疲れて動けなくなる日もあるかもしれません。

それでも、水に浸かっても窓が割れても、家そのものが根こそぎ倒されなければ、そこから時間をかけて回復して、また住めるようになるのと同じように。

傷ついて疲れて動けないぐらいダメージを受けたとしても、時間をかけて回復して、また立ち上がる力が与えられる。

神様の愛と憐れみが私たちのダメージを癒やして、「幸い」に生きる希望をまた芽生えさ

せてくださる。そんな頑丈な人生を、イエス様の土台は私たちに約束しているんです。

岩の上に家を建てるには、時間も労力もかかります。イエス様の言葉を受け止めて、神様の愛に従って生きるのにも、同じように時間と労力がかかるものです。

誰かの言葉を聞いて、それに従うには、まず信頼関係が必要でしょう。信頼していない、認めていない相手の言葉を、私たちはなかなか素直には受け取れないものですから。

簡単に盛り上がった気持ちは、砂の上に建てた家みたいに簡単に崩れてしまいます。同じように、誰かを信頼するのめされるのも、簡単にはいきませんよね。面倒くさくて嫌になることがあって、でも何回も話し合っ、一緒に過して、時間と労力をかけてはじめて、信頼関係は築かれていくものです。

そう、イエス様との関係もまさに同じなんです。

何回もイエス様の言葉に触れて、何回も祈って気持ちを訴えて、礼拝の時を過して、そうやって少しずつイエス様に信頼して、イエス様の言葉を受け止められるようになる。それが、「岩を土台に家を建てる」私たちの工事です。

イエス様に出会った一人ひとりが、時間をかけて労力をかけて、イエス様の言葉を受け止めて、神様と人を愛して生きる「幸い」を追い求める。

二千年以上、そうやって積み重ねられてきた「岩の上に家を建てる」工事を、この教会も受け継いでいます。その宣言が、玄関の前のあの「定礎 この土台はイエス・キリストである」なんです。

私たちはまだまだみんな、岩の上に家を建てる工事中です。これから工事を始めようとしている方にも、疲れて休憩中の方にも、今も頑張っ

工事に取り組んでおられる方にも。

新約聖書のエフェソの信徒への手紙から、この祈りの言葉を贈ります。

「どうか、御父が、その豊かな栄光に従い、
その霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強めて、
信仰によってあなたがたの心の内に
キリストを住ませ、
あなたがたを愛に根ざし、
愛にしっかりと立つ者として
くださるように。」

(エフェソ 3:16-17)

神様が私たち一人ひとりを励まして助けてくださって、イエス様との信頼関係を築いて、私たちが「愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者」としてくださるように。

ここにおられる一人ひとりに、今日のイエス様の言葉を聞く一人ひとりに、神様と人を愛して生きる「幸い」が豊かに与えられますように。

お祈りいたしましょう。